

No.	ページ番号	規格番号	誤	正	備考
1	1	A-1000	本規格は、加圧水型 <b>発電用</b> 原子力発電所（以下、「PWR」という）における流体流れによる配管減肉事象に対する厚さ測定による配管減肉管理の方法について、・・・	本規格は、加圧水型原子力発電所（以下、「PWR」という）における流体流れによる配管減肉事象に対する厚さ測定による配管減肉管理の方法について、・・・	2006年版のみ
2	1	A-1000(2)	(2)B-1100の規定に基づき設備管理者が策定する配管減肉管理を定める指針(以下、「指針」という)が満足すべき技術的要求事項(C章, CA章, CB章を含む)	(2)B-1100の規定に基づき設備管理者が策定する配管減肉管理を定める指針(以下、「指針」という)が満足すべき技術的要求事項(C章(CA章およびCB章を含む))	2006年版のみ
3	7	解説 B-1100(C)	(c)本項は指針の策定およびその改訂に際し、その根拠となった事項等を記録として作成し保管することを求めるものである。なお、「指針の策定」には【B-1300 の検証と改善】による指針の改訂も含まれる。	(c)本項は指針の策定およびその改訂に際し、その根拠となった事項等を記録として作成し保管することを求めるものである。なお、「指針の策定」には【B-1300 指針の検証と改善】による指針の改訂も含まれる。	2006年版のみ
4	27	CA-3100 (3)	CA-3100 減肉率の算出 (3)第3回目以降の試験時の減肉率算出方法 $W'_n = - \frac{n \sum_{i=0}^n t_i T_i - \sum_{i=0}^n t_i \sum_{i=0}^n T_i}{n \sum_{i=0}^n T_i^2 - \left( \sum_{i=0}^n T_i \right)^2}$ $n$ : 供用前試験も含む試験回数 ( $n \geq 3$ ) $t_i$ : 第 $i$ 回目試験時の測定厚さ ( $t_0$ は供用前試験時の測定厚さとし、同試験を実施していない場合は $t_0 = 0$ とする) $T_i$ : 第 $i$ 回目試験時のプラント累積運転時間 ( $T_0$ は供用前試験時のプラント累積運転時間とし、同試験を実施していない場合は $T_0 = 0$ とする)	CA-3100 減肉率の算出 (3)第3回目以降の試験時の減肉率算出方法 <b>供用前試験の実施の有無に応じて、以下の(a), (b)に従う。</b> ( $n$ は供用開始後の試験回数・・・用語の定義より) <b>(a) 供用前試験を実施していない場合</b> $W'_n = - \frac{n \sum_{i=1}^n t_i T_i - \sum_{i=1}^n t_i \sum_{i=1}^n T_i}{n \sum_{i=1}^n T_i^2 - \left( \sum_{i=1}^n T_i \right)^2}$ $t_i$ : 第 $i$ 回目試験時の測定厚さ $T_i$ : 第 $i$ 回目試験時までのプラント累積運転時間 <b>(b) 供用前試験を実施している場合</b> $W'_n = - \frac{(n+1) \sum_{i=0}^n t_i T_i - \sum_{i=0}^n t_i \sum_{i=0}^n T_i}{(n+1) \sum_{i=0}^n T_i^2 - \left( \sum_{i=0}^n T_i \right)^2}$ $t_i$ : 第 $i$ 回目試験時の測定厚さ ( $t_0$ は供用前試験時の測定厚さとする。) $T_i$ : 第 $i$ 回目試験時までのプラント累積運転時間 ( $T_0$ は供用前試験時までのプラント累積運転時間とする。)	2006年版のみ
5	35	CB-3200	CB-3200 余寿命の算出 CA-3200に準じる	CB-3200 余寿命の算出 CA-3200に準じる。	2006年版のみ
6	35	CB-3300	CB-3300 判定基準 CA-3300に準じる	CB-3300 判定基準 CA-3300に準じる。	2006年版のみ
7	参考3-8	参考資料3 添付-3) 湿り度	3) 湿り度 添付図3に湿り度が減肉率への影響を示す。PWRプラントの湿り度は <b>加熱</b> 蒸気から水単相流の範囲にあり、試験対象システムを湿り度条件により選定する考え方は有効である。	3) 湿り度 添付図3に湿り度が減肉率に <b>及ぼす</b> 影響を示す。PWRプラントの湿り度は <b>過熱</b> 蒸気から水単相流の範囲にあり、試験対象システムを湿り度条件により選定する考え方は有効である。	2006年版のみ